

きれいな海は家庭から —石けんとEM堆肥作りの普及活動—

唐丹町漁業協同組合婦人部
部長 高橋 昌子

1. 地域の概況

私達の住む釜石市唐丹町は、岩手県の東部、釜石市の最南端に位置し、町内8地区からなる世帯数801戸、人口2,533名の風光明媚なりアス式海岸を有する漁業の町であります。

2. 漁業の概況

唐丹町漁業協同組合は、1世帯1組合員制で組合員数は543名を数え、唐丹町の全世帯数の約7割にあたり、若布、昆布、ホタテガイなどの養殖漁業に加えアワビ、ウニなど採介藻漁業が盛んであります。

3. 組織と運営

私達の婦人部は、昭和33年に結成され、現在の部員数は214名であります。役員は、7支部の支部長と部員から2名を選出し構成され、任期は2年となっています。

婦人部の活動費は、会費と漁協からの助成によって賄われ、年間約60万円の予算で活動しております。

4. 活動課題選定の動機

私達は長年に亘り婦人部活動の重点課題として、海の汚染防止活動を推進してまいりました。

平成6年に釜石市の遊びとふれあいの水辺環境づくり事業の対象地区となり、台所用水切り袋の配布や学習会などの実践活動を通して、生活雑排水に含まれる汚濁物の河川流入防止に取り組みました。

その結果、釜石市から「水切り袋を設置することにより、河川に流入する汚濁物が約3割も削減されるという活動効果が確認された。」との報告がありました。

私達はこの実践活動の結果を踏まえ、家庭の主婦の意識改革と身近に出来る活動について話し合ったところ、「きれいな海は家庭から」という認識が生まれ、自分達が身近に出来ることから始めようということになり、「廃油利用の石けん作り」と「家庭で出来る生ゴミリサイクル」について取り組むことにしました。

5. 実践活動状況及び効果

(1) 石けん作りと普及活動

私達は、平成7年釜石市の環境生活課の職員を講師に招き、廃油利用の固形石けん作り

の講習会を開催しました。廃油と劇薬の苛性ソーダからどんな石けんが仕上がるのか期待しながら実習に取り組みました。10日程でクリーム色の石けんが完成したので、ウニのむき身作業や浜仕事で汚れた軍手を洗ってみたところ、抜群の汚れ落ちに驚き、以来すっかりとりこになってしまい、今では台所や洗濯に欠かせないものとなりました。

廃油の利用と抜群の洗浄力を持った石けんに魅了されて、一人でも多くの人に使ってもらいたく普及活動を始めました。個人や学校等機会あるごとに提供し、特に油污れの食器を多量に処理する地元の食堂には大変喜ばれています。石けんを作り始めて6年、自分達の作った石けんを約1,000名に提供し、そのほとんどの人達から「良く落ちる」と好評を得ています。

更に、2年に一度行われる唐丹公民館まつりにはこれまでに2回、婦人部の石けん作りコーナーを設け、廃油利用の石けんの作り方の実演や試供品の提供、また、洗剤のいろいろなアクリルタワシの見本等も展示して、廃油利用の石けんの普及活動をおこないました。

平成10年の浜まつりでも、婦人部が作った石けんを販売しました。浜まつりには婦人部の代表者が生活排水による川や海の汚染防止のことや石けんの効果を書き込んだ説明書を添えた、固形石けんとプリン石けんを各100個用意して参加しました。このときは、私達から石けんの効果を説明しながら200個を販売しましたが、平成11年の浜まつりでは自ら進んで買い求める人が多く、販売開始前から行列が出来るほどの盛況ぶりで、固形石けん150個とプリン石けん116個は瞬く間に完売となりました。

また、唐丹町には、鮭がそ上する2つの川があります。その1つである熊野川の上流の地区において、子供から老人まで三世代を対象に和気合い合いと石けん作りを行いながら川や海的环境保全について話し合いました。

平成8年には、唐丹中学校3年生の授業の一環として、婦人部員5名が講師となり、廃油利用の石けん作りの指導をおこなったところ、参加した生徒は自分達で出来る環境保全に強い関心があることがわかりました。

さらに唐丹小学校の児童で構成されている海づくり少年団である唐丹かもめ少年団34名を対象に石けん作りを実施したところ、中学生と同様に子供達的环境に対する関心の高さが印象的でした。

このような活動が新聞記者の目に止まり、地方新聞である釜石新報の「森は海の恋人シリーズー川を守るー」というテーマで私達の石けん作りが掲載され、活動の励みとなりました。

(2) 家庭の生ゴミでEM堆肥作りの実践

私達の婦人部活動は、「まず、自分たちにできる身近なところから」ということを考えており、家庭から発生する生ゴミがリサイクルできることを聞き、平成9年に釜石市の清掃事務所長を講師に招き「家庭でできる生ごみ処理について」の勉強会を開催しました。勉強会では、EMという有用微生物群のことや生ごみが良質の有機肥料として家庭菜園などに使えることを知り、早速EM生ゴミ処理バケツやEMボカシを婦人部がまとめて購入し実践しました。以来、部員が実践を続け、平成11年4月にはEM堆肥作りなどの話題が多くなったことから、部員を対象にEMに関するアンケート調査を実施したところ191名から回答がありました。

主な調査内容は、

一つ目が、「EM堆肥を作ったことがあるかどうか」と言う質問に対して、「ある」と回答した人が57名、「ない」と回答した人が134名でした。

二つ目に、「EM堆肥作りをして感じたこと」と言う質問に対して、「ゴミ収集日に家庭から出す生ゴミの量が減少した。」と言った回答がありました。

三つ目は、「今後もEM堆肥を作りたいか」と言う質問に対して「はい」と回答した人が88名、「いいえ」と回答した人が86名、無回答の人が17名でした。

この調査結果を踏まえて、平成11年9月に2回目の勉強会を開催しました。この勉強会では、家庭から発生する生ゴミをごみとして処理するか再利用するかは、一人ひとりの心がけ次第であり、また環境問題を行政にまかせっきりにするのではなく、私達婦人部も常に考えて行く必要があることを認識しました。

6. 波及効果

廃油利用の石けんづくりや生ゴミの減量や有効利用などの活動を通して地域のイベントに参加し多くの方とふれ合うことにより、婦人部の存在が認識され、地域の方々と一体となった「きれいな海は家庭から」と言う取り組みに、より弾みがついたと感じました。

7. 今後の課題

これまで私は高齢の姑を介護しており、度々汚れ物を洗濯していましたが、手作り石けんの抜群の洗浄効果により洗濯に自信を持つことができました。そして、きれいになった洗濯物を見た姑の安らいだ表情から、私は石けん作りを実践することによって人の心に安らぎを与えられるという喜びを感じました。

また、私達が販売した手作り石けんは、購入先の家族を通じて全国に離れ住む家族や友人知人等に送り届けられています。自分達にできるささやかな活動として取り組んだ石けん作りですが、小さな雫が沢水となり、やがて大河となるように全国に普及されることを願いながら、今私達は一個一個に心を込めて製作しています。

さらに、環境問題の取り組みを通じて、一人ではできないこともみんなの力を合わせればできることを経験しました。次の世代の子供達に自信を持ってきれいな川や海を引き継ぐために、これからも廃油利用の石けん作りとEM堆肥作りの普及活動を継続していきたい思います。

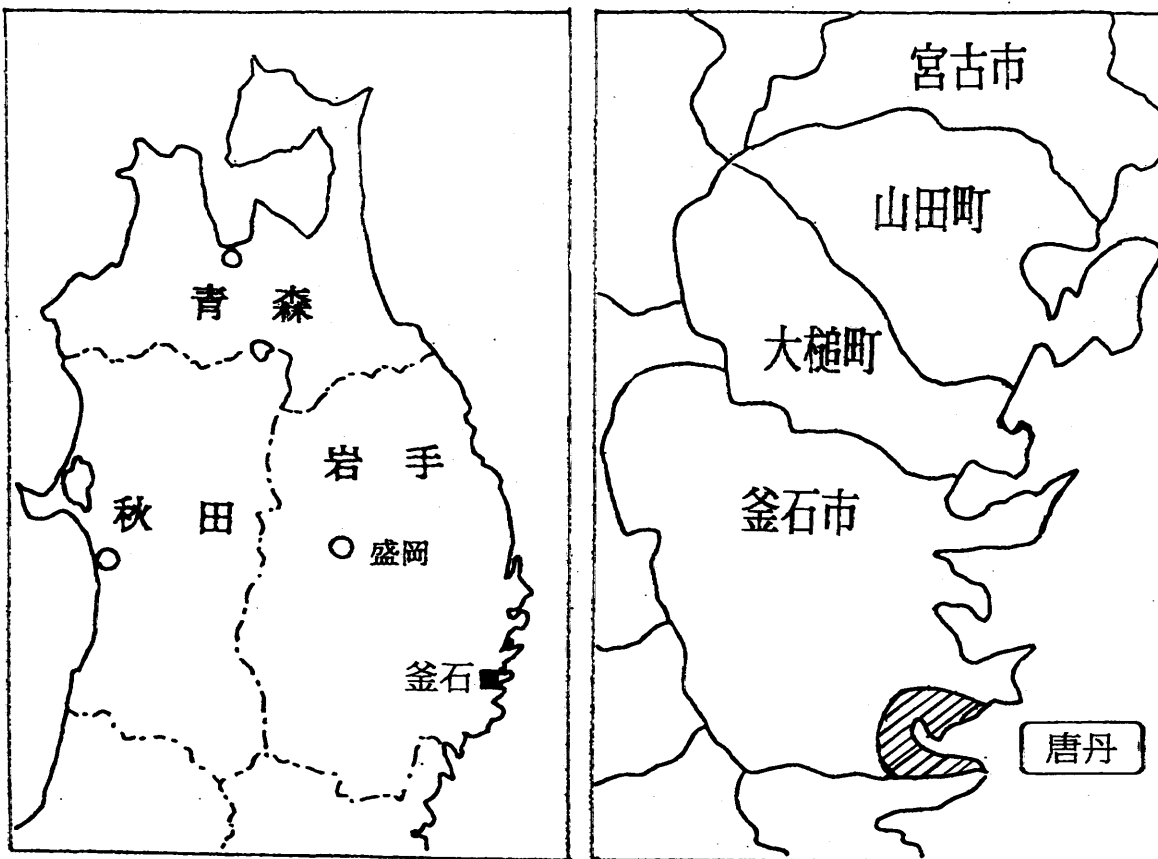


図1 唐丹町の位置

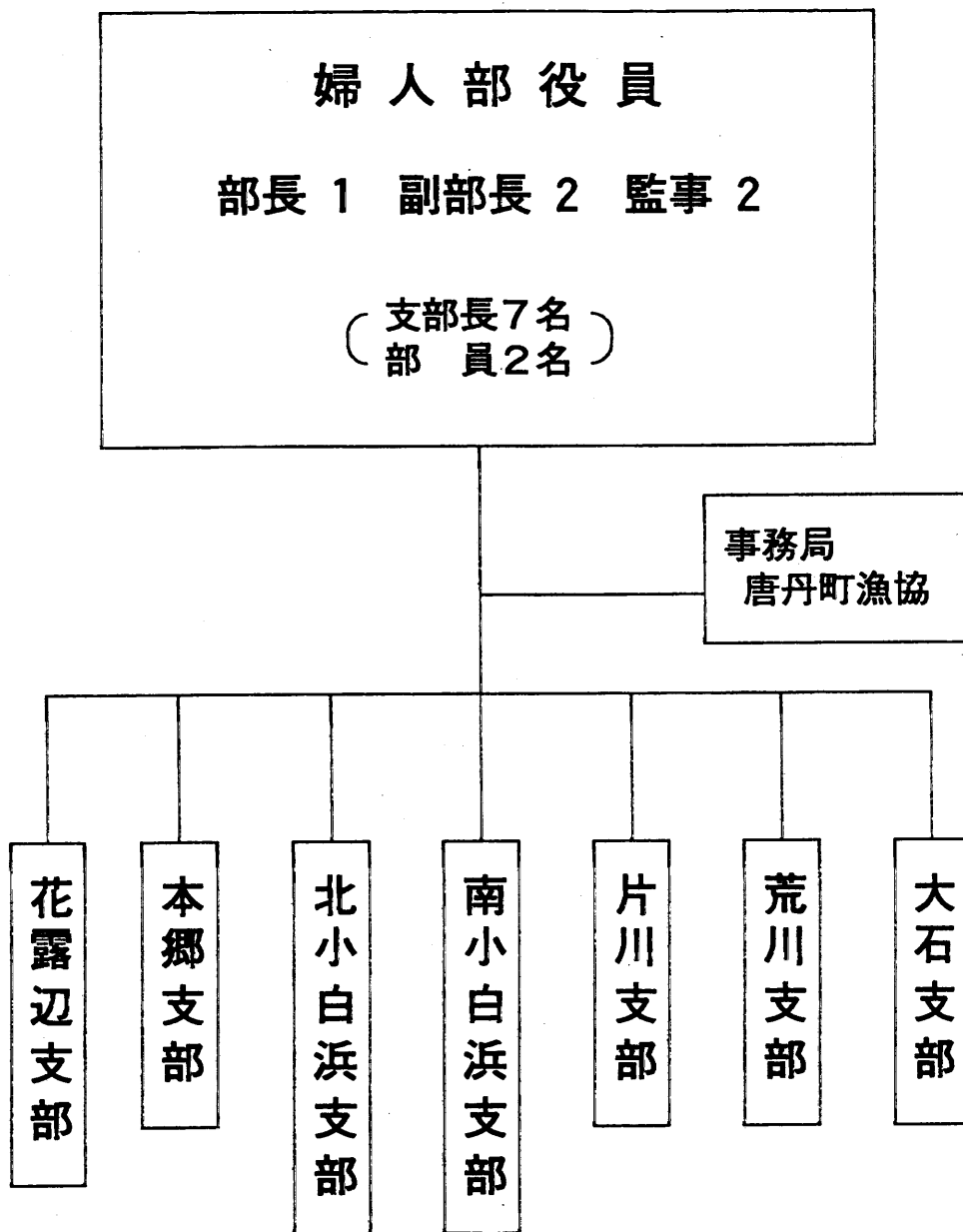


図 2 婦人部の組織図

表1 主な漁業

養殖業・・・ワカメ、コンブ、ホタテガイなど

採介藻漁業・・・アワビ、ウニ、マツモなど

定置網漁業・・・秋サケ、イナダ、イカなど

表2 EMに関するアンケート調査

質問1 EM堆肥を作った事の有無は？

回答1 ある 57名(30%)

ない 134名(70%)

質問2 EM堆肥作りをして感じたことは？

回答2 ゴミ収集日に家庭から出す生ゴミの
量が減少した

質問3 今後もEM堆肥を作りたいか？

回答3 はい 88名(46%)

いいえ 86名(45%)

無回答 17名(9%)